

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2471200291
法人名	株式会社 パル
事業所名	グループホーム ゆめが丘
所在地 (電話番号)	伊賀市ゆめが丘4丁目2番地の1 (電話) 0595-23-6122
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 5 月 28 日(水)

## 【情報提供票より】 (H20年2月27日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 4人, 非常勤 2人, 常勤換算 4.2人	

### (2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	36,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 13,000円			

### (4)利用者の概要(2月27日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名	
要介護1	3 名	要介護2	3 名			
要介護3	1 名	要介護4	1 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	85 歳	最低	82 歳	最高	94 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	宮本医院 岡波総合病院 上野病院 村井歯科医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業者は10年程前に開発された団地の一角にあり、約400坪の敷地に自宅2棟に隣接して建てられた1ユニットである。建物の裏は自然の景観が残っており、住宅地であるが静かな環境が保たれている。職員は6名の内、家族が4名(1名は遠方在宅)であり、家族が主体で家族的な雰囲気の下で支援する体制となっている。日常の支援は、一定の予定は有るものの、利用者の状況に応じ柔軟に行われており、のんびりとした雰囲気のなかで静かな様子が見えがえる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域とのつきあいについては、代表者が住民の1人として自治会に入っているが、団地には未だ老人会等が無く、利用者は地域活動に参加している状況にはない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価票の取り組みの事実に対する記入は極めて簡素であり、代表者として自己評価、外部評価の意義は理解されているものの、質問項目に対する疑問も多く、日常業務の中で職員を含めた積極的な取り組みの状況にはない。職員の意識合わせや、振り返り考える機会としてとらえ、評価を活かした改善の取り組みが望まれる。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は、ほぼ2ヶ月に1度程度開催されているが、利用者、家族、包括支援センターの参加はない。地域の理解と支援を得る為の機会としてとらえ、積極的に参加してもらう様な働きかけが望まれる。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) グループホーム便りや家族会等は無いが、家族の来訪回数が多く、その都度意見を聴き、支援に活用している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との連携は、代表者が住民の1人として行っている。利用者は地域住民との交流が殆どない。運営推進会議等を利用し、利用者が地域の一人として交流を図れる様、努力される事を期待したい。

## 2. 評価報告書

( ■ 部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は玄関、食堂等には掲示されていないが、パンフレットに明記されており、入居時には家族に説明されている。「地域住民との交流の下で」の考え方は当初からの基本理念として認識されている。	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、日常ケア全てに於いて共有理念として認識して「お帰りのさい」を合言葉に家族として支援している。	
2. 地域との支えあい				
		○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には運営者が地域住民として参加しているが、利用者は団地に老人会等が未だ出来ていない事もあり、殆ど地元の人々との交流は無い。	○ 運営推進会議等を利用し、利用者が地域の一員として交流を図れる様、努力される事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
		○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者は自己評価、外部評価の意義は理解されているが、実施については手間がかかり、事業所の能力を超えているとの考え方であり、職員を含め具体的な改善への取り組みには至っていない。	○ 自己評価は職員の意識合わせや、振り返り考えてみる機会としてとらえ、評価を活かした改善の取り組みが望まれる。
		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議はほぼ2ヶ月に1度行われている。包括支援センター利用者、家族の出席はない。会議では防災や事業所の取り組み状況等、幅広く話題にされている。	

		○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当者が来る事は無いが、介護保険課へは事務的な用件が有る時に行き、話し合いをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
		○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的なグループホーム便りや家族会等の会合は行われていないが、家族の来訪が多く、その都度一人ひとりの状況を報告している。		
		○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口は重要事項説明書に記載されており、入居時には説明されている。又、玄関にも明示され、家族の来訪時には意見等を聴いて、支援に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員6名のうち4名が家族であり、馴染みの人達で支援を受けられる体制である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	家族以外の職員の2名は年齢の事もあり、次のステップへの意欲は無いが、家族の職員1名は介護福祉士を目指し取り組んでおり、運営者も協力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム間の交流会は無いが、施設関係者の訪問は有り、情報交換等を行っている。		

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時は相談の後、利用者や家族の来訪を受け説明を行い、適時体験などを実施しながら、徐々に馴染める様に対応している。		
----	----	---	---	--	--

### 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は元職業婦人が多い為か自立心が強く、過去の体験を聞きながら喜怒哀楽を共にする様に心がけている。		
----	----	--	--	--	--

## III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### 1. 一人ひとりの把握

14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所として利用者の受け入れの基本は、支払い能力と本人のグループホームに対する適応性を判断している。従って入居後は本人の意向、希望を出来る限り受け入れ支援している。		
----	----	--	--	--	--

### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時の希望や身体能力、生活歴を職員と話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1度の間隔で当初の計画に対する見直しが行われており、変化が生じた場合は、家族の来訪時に話し合い計画書に反映している。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護サービスの項目に入っているか否かに関係なく、本人の希望が有れば病院への送迎や、友達宅への送迎等を柔軟に対応している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望により、かかりつけ医での受診もあり、決まっていない人は事業所として契約している医院での受診となっている。尚、年1回の定期健診は、全員が受診出来る様に支援している。	
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としては、終末期の対応は出来ない旨、家族に話しており、職員も方針を共有している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報事務所にきちんと保管管理されており、ケアに於ける言葉使いについては、利用者が元職業婦人が多い事も特に気をつけている。	
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としての一応のスケジュールは有るが、身体レベルから外出があまり出来ないのも、玄関先の椅子でのんびりしたり一人ひとりの希望に合わせた支援をしている。	

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けについては、出来る利用者は一緒にしている。食事は職員の分も作るのは大変で、運営者としては、利用者だけの対応としている考えであり、食事は一緒にしていない。	○	食事は一緒にしなければならないという決まりは無いが、職員が同じ物を一緒に食べながら過ごす事の意義もあり、日に1度とか、1人か2人等、1度実施してみる様、前向きな検討が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、午前10時からと午後1時からとしているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、週3回程度は入れる様に支援している。		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物、トランプゲーム、ぬり絵など本人に合わせた気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	介護レベルから考え事業所外の散歩は難しいが、建物前の敷地内での散歩や、玄関先のテーブルでの雑談などで気分転換を図っている。		

(4) 安心と安全を支える支援

26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事の弊害は職員も含め理解されており、玄関及び居室には鍵をかけていない。過去には徘徊した例も有ったが近所の交番には事業所の実態を話してお願いしており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練が実施されており、運営推進会議に於いても話題にして協力をお願いしている。		

(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>職員の一名が栄養士でもあり、カロリーや水分摂取量のチェックは、確実に行われている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間は全て大きな窓が有り明るさが確保されている。玄関には出入りの時に便利な椅子が備えられドアから居間へ上がるスロープもあり、安心して出入り出来るように配慮されている。食堂には季節感のある花も有り、居心地よく過ごせる様に工夫されている。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室はそれぞれの使い慣れた家具や、置物が自由に持ち込まれ、居心地よく過ごせるようになっている。</p>		